

meguマガ

2014.10月号... Vol.77

フジボイタルズ
人と動物の幸せを応援！
東京都動物愛護推進員の
茅山員 皆様へ

人を救う 犬の鼻



「クワンクワン...」犬は鼻が利くことは多くの方がご存知かと思いますが。昨今では大規模災害の後、がれきの中に残された人命を探するため、災害救助犬が泥まみれになれ活躍する姿を報道で目にすることがあるのではないのでしょうか。犬の嗅覚は、例えば「汗の臭い」に関しては、人が臭うと感じる「1億倍」の臭いを感知するそうです。それ故、一枚のハンカチから得た情報(臭い)で、その人物の足取りをたどっていくこともおこなわれますね。犬の鼻先は丸にキート♡かわいらしい人々の心を癒すと共に、その優れた能力で人の命を救ってくれています。そうして人を救ってくれる犬... ペットとは家庭の中にあつて、その鼻の能力は同じです。ですから逆に、人と生活の中で、犬の苦手な臭いも自ずとストレスになることも... 洗濯柔軟剤の香り、芳香剤の香り、虫スプレー(ミント)の香り... 実はこれらが発作の犬にとって月々の刺激が強すぎる香りもあるぞ! 注意が必要!!

新宿伝統野菜 内藤とうがらし

内藤とうがらし
新宿



10月4日は語呂合わせから「10.とうがらし4」の日。最近、何が町新宿で、あちこちで「とうがらし」を作っているブランカーを見かけ、「とうがらし栽培、流行っているの??」と聞いていました。そんな折、実はそれが『内藤とうがらし再興プロジェクト』の一環であることを知りました。伝統ある『江戸野菜』は練馬大根・亀戸大根・小松菜などが代表格。そこに古く江戸時代、新宿御苑にあたる土地で真赤なじゅうたんと呼ばれる程、盛んに栽培されていた『内藤とうがらし』も、JA東京中央会により、2008年「伝統江戸東京野菜」と認定。400年の時を経て、今、新宿の特産品として再興しつつあるのだ!!

内藤とうがらしの「内藤」は、江戸時代の大名家・内藤清牧が、内藤家の土地であった現在の新宿御苑でとうがらし畑を作っていたことに由来します。また、当時のその辺りは宿場町として多くの旅人が立ち寄り場所。江戸時代のファストフード「蕎麦屋」が4000軒もあったことから、とうがらしは薬味として人気となり、急速に普及したそうです。とうがらし畑の普及は新宿御苑から今の伊勢丹のある辺りに広がり、高田馬場・大久保・早稲田の地まで真赤なじゅうたんを広げたといえます。

そこで盛んになった内藤とうがらしも、いつの頃か、現在主流の「鷹の爪」に人気を渡り、消えてしまったのだ... 鷹の爪はピリリと辛味が強いのが特徴。内藤とうがらしは「ハッ房」という種類に属す。辛味の中に甘さを感じる中辛の風味がクセになるのが特徴。現在、新宿では『新宿と言ったら内藤とうがらし!』という目玉に様々なイベントも開催中。新宿のレストランで内藤とうがらしを使用したメニューも続々登場しているそうです。とうがらしの栄養はビタミンC・βカロテン・ビタミンEが豊富で、動脈硬化予防や、美肌作りに欠かせない野菜です。来年の栽培期(6月~8月)(東)でもこの新宿伝統「内藤とうがらし」を受け継いで、お客様にお茶会におすも分けさせていただきますーと、聞いています♡



新宿区役所



今月の工事 (恵) 社長が言はす

注射か?!
手術か?!
~外壁タイル篇~

私たちは『建物のお医者さん』でもあります。

外壁のタイルは、経年によって割れ・浮き・剥がれなどが生じ場合によっては落下し... 第三者に危険を及ぼすこともあります。

そんなことにならない為によく検査して治療方法を検討します。



↑こちらは『注射』で対応。
エポキシ樹脂をタイルの裏面に注入して接着。



↑一方こちらは『手術』を検討。
この浮き方ならば、タイルを撤去・貼り替え。

...といった具合ですね。

『建物の健康管理』は、私たちの責務なのです。

発行元 meguマガ編集部
茅山員 恵
売場建設(株)
新宿区新宿1-10-4
Tel. 03-3350-6689
Fax. 03-3350-8186